

個別事業費	5,166 千円
交付金額	3,816 千円

地域の実情と課題

- ・女性は、様々な年代で貧困などの生活上の困難に陥りやすい状況にある。
- ・生理用品など生活するうえで必須な物品の入手が難しい女性の存在も報道などで指摘されている。
- ・敷居の高さを感じるなどの理由で相談窓口につなげられない女性も一定数存在すると思われる。

目的・目標

貧困や孤立、性被害などのリスクを抱えている女性を相談・支援につなげる。

【数値目標】アウトリーチによる支援者数

延べ200人

【達成状況】居場所の利用人数 延べ約517人

事業の特徴

貧困や孤立、性被害などのリスクを抱える若年期を含めた女性を相談・支援につなげるため、各種SNSや夜回りでのリーフレット等配布で対象世代へ事業（夜間の居場所開設）の実施周知を行った。

連携団体

「若年女性支援情報交換会」※以下構成団体

- ① 公益財団法人せんだい男女共同参画財団
- ② 仙台市
- ③ ①の関係団体

事業の効果

様々な事情で支援機関につながっていない10代から20代の若年期を含めた女性を適切な相談・支援につなげることができた。

今後の課題

相談ニーズへの対応、夜回りの負担軽減、ケースの共有方法など

●アウトリーチ型相談支援事業

1 開催概要

貧困や孤立、性被害などのリスクを抱える若年期を含めた女性を相談・支援につなげるため、アウトリーチ相談・支援について、令和4年度にプロポーザル方式により採択されたNPO法人キミノトナリに委託し、事業を行った。

実施内容:月に3～4回程度、主に**金曜日の19:15～22:45**に市中心部において居場所を開設した。また、居場所開設に併せて各2時間程度、夜回りを実施した。

実施回数:44回

居場所の利用人数:延べ517人

夜回りの声掛け人数:延べ約1,990人



夜回りの様子

2 事業効果及び効果検証

- ・貧困や孤立、性被害などのリスクを抱えるものの、様々な事情で支援機関につながっていない10代から20代の若年期を含めた女性を適切な相談・支援につなげることができた。
- ・困難な状況にあるもののそれを抱え込んでしまう女性が、否定されず受け入れてもらえる場所を求めている様子が伺えた。



リーフレット